

事業名：千葉県通学路推進事業（学校安全総合支援事業）

モデル地域：八街市八街中学校区

拠点校：八街市立八街北小学校

所轄教育委員会：八街市教育委員会

電話番号：043-443-1446

1 モデル地域の現状

○モデル地域名：八街市八街中学校区

○学校数：幼稚園 1 園 小学校 2 校
中学校 1 校**(2) モデル地域の安全上の課題**

モデル地域は市の中心部に位置し、住宅地が多い地域である。通学路では、歩道の整備が少ない割に交通量も多い。児童生徒に対する交通安全教育の一層の充実が課題である。

2 モデル地域の事業目標

八街市では、下校途中の小学生 5 人が飲酒運転のトラックにひかれ死傷するという痛ましい事故を受け、こうした事故が二度と起こらないよう、通学路における安全を確保するための効果的な学校安全のあり方について調査・研究及び実践を行う。

通学路における安全確保を目的とした学校安全推進体制を構築し、児童の発達段階に応じた取組について、関係機関と連携して展開する。

これらの成果と課題、対応策の検討を行うにあたっては、児童や保護者、教職員及び地域住民へアンケートを実施する。また、学校安全アドバイザーの助言や専門機関の協力の下、安全教育の効果評価を目的とする分析・検証を実施する。

これらの過程で得られた知見を他地域への普及促進に努める。

3 取組の概要**(1) 実施概要**

| 実施時期 | 計 画 事 項 | 参加者 |
|------|----------------------------|---|
| 4 月 | ○交通安全教室 | 八街北小学校児童・職員、八街市防災課、警察 |
| 7 月 | ○第一回実践委員会 | 学校安全アドバイザー、県教委、市教委、学校、同 PTA 会長、交通安全協会 |
| 8 月 | ○通学路点検 ・交通安全プログラム | 八街北小職員、市関係部局等、市教委 |
| 9 月 | ○児童目線による通学路点検「聞き書きマップ」の活用 | 八街北小学校児童・職員、学校安全アドバイザー、市教委 |
| 10 月 | ○第二回実践委員会 ○公開授業・講演会兼研修会 | 拠点校児童・職員、モデル地域職員、学校安全アドバイザー、県教委、市教委、県内学校関係者、保護者 |
| 12 月 | ○「交通安全マップ」発表会 | 拠点校児童・職員、学校安全アドバイザー、市教委 |

4 具体的な取組

(1) 安全教育の充実に関する取り組み

ア 安全教育の充実に関する取組

① 実践委員会における情報共有

6月、10月に実践委員会を開催。実践委員会の中で情報交換の時間を設け、拠点校の実践等について共有を図った。

＜実践委員＞

千葉工業大学教授、帝塚山大学客員教授、日本自動車研究所研究員、立正大学教授、千葉県教育庁北総教育事務所指導主事、八街市教育委員会教育長・学校教育課長・指導主事、佐倉交通安全協会、八街北小学校PTA会長、八街北小学校校長・教頭・安全主任

② 公開授業の開催

モデル地域内の拠点校を会場に、公開授業を実施。

日時：令和5年10月20日

テーマ：子どもが、飛び出さずに、まわりを見て、聞いて、(手をあげて)ドライバーに横断の意思を伝えて、渡るようにする

内容：小学校2年生を対象に、体育館に見通しの悪い道路を再現し、教員が横断歩道の渡り方を指導した上で、実際に児童が模擬道路を横断。保護者は児童が横断している様子を観察し、事前に、講師よりレクチャーを受けた「教え方のポイント」や「チェックポイント」に基

づき、子どもにアドバイスすることで、親子で交通安全について学習した。

参加者：八街北小学校児童・職員、千葉工業大学教授、日本自動車研究所研究院、立正大学教授、千葉県教育庁教育振興部児童生徒安全課指導主事、八街市教育委員会教育長・学校教育課長・指導主事、八街市校長会、市内小中学校教職員、県内学校関係者、八街北小学校保護者

参加人数：63人



③ 研修を兼ねた講演会の開催

モデル地域内において、学校安全アドバイザーの日本自動車研究所大谷亮氏による講演会を実施。

日時：令和5年10月20日

テーマ：子どもの発達の観点からみる交通安全

内容：子どもの交通事故の状況と特徴や、発達段階に応じた教育、交通安全教育を実施する上での留意点について、小学生から高校生までの発達段階に応じて指導できるよう、講師の研究成果を踏

まえながらご講話いただいた。
た。

参加者：八街北小学校職員、千葉工業大学教授、立正大学教授、千葉県教育庁教育振興部児童生徒安全課指導主事、八街市教育委員会教育長・学校教育課長・指導主事、市内小中学校教職員、県内学校関係

参加人数：36人

④学校安全アドバイザーの活用

- ア 千葉工業大学 教授
赤羽 弘和
- イ 帝塚山大学 客員教授
蓮花 一己
- 派遣校数 1校
- 派遣回数 1回
- ウ 日本自動車研究所 主任研究員
大谷 亮
- 派遣校数 1回
- 派遣回数 4回
- エ 立正大学 教授 原田 豊
- 派遣校数 1校
- 派遣回数 3回

イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

①拠点校の2年児童を対象に意識調査と交通ルールおよびマナーに関するテストを、本事業を踏まえて実施した。また、取組実施状況を把握するとともに、学校安全アドバイザーの千葉工業大学赤羽教授、帝塚山大学蓮花客員教授、日本自動車研究所大谷研究員、立正大学原田教授より安全教育の取組について評価及び助言を

いただいた。

②八街市の成果指標

ア 危機管理マニュアルの見直しや内容の周知など、教職員で共通理解を図っている学校の割合は、100%となった。

イ 地域住民・保護者の協力を得て、関係機関等と対策について、検討している学校の割合は、100%となった。

③拠点校におけるアンケート結果

ア 一人一台PC端末を活用し、2年生の児童を対象に、交通安全に関するアンケート形式のテストを実施。正答率は交通安全教育前67.7%から69.4%と教育後1.7%上昇した。特に教育前に点数が低かった児童は、教育後の得点が高くなる傾向が見られた。

イ 知識や行動に関する問題については、教育前後で正答率に変化は見られなかったが、危険予測に関するハザード問題については、教育後に正答率が11.3%上昇した。

**(2) 組織的取組による安全管理の充実に
関する取組**

- ア 児童目線による通学路点検を実施する際の保護者ボランティアの協力
- イ モデル地域内各校PTAとの連携
 - 児童生徒の登下校の交通安全見守り活動
 - 保護者による児童の登校付添
- ウ 地域住民によるボランティアの協力
 - 登下校の交通安全見守り活動
 - 防災無線を活用した地域住民への登下校の見守り要請

エ 学区連絡協議会との連携

○地域の子どもたちの様子についての情報交換

○「子ども 110 番の家」設置事業への協力要請

オ 地区回覧板で安全教育の取組周知

(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質能力の向上に係る取組について

ア 市内安全主任研修会の実施

イ 危機管理マニュアルの作成状況に関する調査や点検の実施

(4) その他の取組について

ア 「聞き書きマップ」を活用した交通安全マップの作成

日時：令和 5 年 9 月～12 月

実施学年：4 年生

内容：登下校時に、音声・写真を記録できる「聞き書きマップ」というアプリケーションを活用し、通学路の危険箇所を確認した。それをもとに交通安全マップを作成し、3 年生への発表や、地区児童会で報告し、校内に掲示した。



5 取組の成果と課題

【成果】

○拠点校における児童の横断歩道横断前の停止や左右確認などの安全行動の増加が見られた。

○保護者とともに交通安全教室を実施したことで、保護者の交通安全に対する意識が向上した。

○拠点校において交通安全マップを作成し、校内で共有したことで、全校児童の通学路の安全に関する意識が向上した。

○学校安全アドバイザーとして、多方面から有識者を招聘し、拠点校の取組に対する指導助言をしていただいたことで、児童の発達段階や実態に合わせた取り組みができた他、教職員の安全教育に対する意識も向上した。

【課題】

○今回の拠点校での取組について、他校でも実施できるように内容の精選や効果的な方法などについて、再度検証していく必要がある。

○交通安全教育の継続は必須であり、そのための教育課程の編成や地域や関係機関との連携を継続的に行っていく必要がある。

○通学路の安全確保のためにはハード面の道路環境の改善が必要であり、交通安全プログラム等を通じて働きかけを市や県に継続していかなければならない。